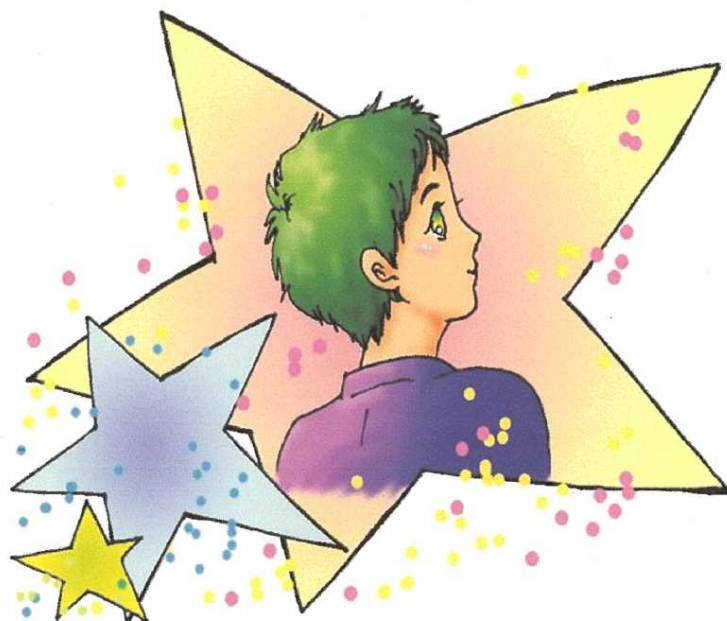


令和4年度文部科学省事業

「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」

# 令和4年度 通級による指導 自立活動事例集



令和5年2月

香川県教育委員会

## 実践事例目次

### 【小学校：学習面・生活面・心理的な安定に関する課題への指導】

担任や保護者と連携し、「なりたい自分」になるために自己肯定感を育む指導	1
日常生活で姿勢や行動を調整しようとする意欲を高める指導	2
考えた合い言葉を状況に応じて般化できるように学級担任等と連携した指導	3
視覚と運動が供応する力を高め、指先の巧緻性を養う指導	4
感情をコントロールできる自分なりの方法を見つけ、家庭での実践につなげる指導	5
目と手の協応運動をスムーズにすることで、身体のコントロール力を高める指導	6
自分に合った学習方法で主体的に取り組むための指導	7
操作活動を伴う自作教材を活用し、自分でできる体験を多くするための指導	8
自己評価を可視化することで意欲化を図り、生活リズムを整える指導	9
児童が自分に合う方法を試し実践することで、読み・書きの抵抗感を軽減する指導	10
自分の気持ちを適切に表出し、他者の気持ちに共感するための小集団での指導	11
様子を表す言葉を視覚化し、語彙の獲得と活用を促す指導	12
手順表や補助機器を活用しながら自分に合った学び方で数の興味を高める指導	13
ゲーム的要素を取り入れ、スモールステップで書くことへの意欲化を図る指導	14
書字に課題のある児童への指導	15
割り算に苦手意識がある児童へ筆算の仕方を動作化してコツを伝える指導	16
場面緘黙が見られる児童への、担任や家庭と連携した指導	17
書字障害の児童への漢字・ローマ字指導と SST の指導	18
児童とともに評価をして、目標の設定を行う「個別の指導計画」を活用した指導	19
感情をコントロールして時間を守った行動をするための個に応じた指導	20
物事を多面的に、ネガティブ思考をポジティブ思考に置き換えてとらえる指導	21
「話す」「聞く」「進行する」役割を体験しながらコミュニケーション力を高める指導	22
なりたい自分像に近づくために感情をコントロールする力を育む指導	23
不安な気持ちを軽減する対処法を考え、実践につなげる指導	24
感情のコントロールが苦手な児童への指導	25
衝動的な言動がある児童への指導	26



## 【中学校、高等学校：学習面・生活面・心理的な安定に関する課題への指導】

自立活動の目標や内容を設定するための実態把握チェックシートの活用	27
安心して登校し、活動に主体的に取り組むための指導	28
自身の長所を生かし、成功体験を積むことで達成感を味わえる指導	29
「できる」ことを増やし、自己肯定感を高める指導	30
時間を設定し、集中して活動に取り組むことができるような指導	31
より良い行動のできる自分を目指そうとする意欲を高める指導	32
他人に必要なことを聞いたり、話したりすることが苦手な生徒への指導	33
好きなことや得意なことを話すことで主体性を育む指導	34
自分に合った方法で、板書やメモをとるための指導	35
アルファベットカードや読みのルールカードを活用した指導	36
自己理解を深め、安定した生活を送り、就職に向けての準備を支援する指導	37
自分の話し方を認識し、聞き手に伝わる話し方の習得に向けた指導	38

## 【小学校、中学校：言語障害・難聴に関する課題への指導】

スモールステップで楽しみながら取り組む、発音と強調運動の指導	39
自分に合った話し方を見つけ、読んだり話したりする指導	40
興味のあることから、正しい発音や言葉の意味理解を深める指導	41
考えを整理し、読みや書きの力を高める指導	42
自己の障害認識を促し、担任と連携してコミュニケーション力を高める指導	43
自己理解と障害の受容を促し、コミュニケーション力を高める指導	44



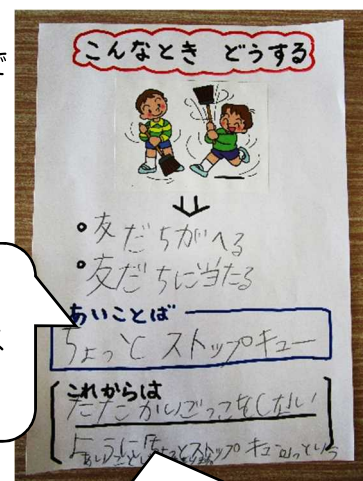
---

小学校：学習面・生活面・  
心理的な安定に関する課題への指導

---

小学校	日常生活で姿勢や行動を調整しようとする意欲を高める指導
<p>★対象児童 低学年 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴←「特徴」と変えたいので得意なことや強みを加筆してくださいと幸いです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優しい人柄で、教師や友達に親しく話しかけて関係づくりをしようとする。</li> <li>・授業中に同じ姿勢を一定時間保持することが難しく、常に体や手を動かしている。</li> <li>・周りの状況を理解できずに、衝動的に動いてしまうことがある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を意図的に動かしてボディイメージを高めることで、力加減を自分でコントロールできるようにし、日常生活でも姿勢や行動をコントロールしようとする意欲を高める。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【自立活動 4環境の把握-(2)(4)、5身体の動き-(5)】</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>※45 分間の指導の中で、集中トレーニングや視覚認知のトレーニングなどと合わせて、以下のような用具を使った活動を1～2種類行う。</p> <p>1 スクーターボード</p> <p>(1) スクーターボード引き←スクーターボードの上に座ってロープを握り、教師がそのロープを勢いよく引っ張ることで、平衡感覚や姿勢保持に必要な固有感覚を働かせる。</p> <p>(2) 壁蹴り←スクーターボードの上につ伏せで乗り、足の裏で壁を思いきり蹴り、指先から足先まで体をピンと伸ばして前進することで、体の重心を感じ、平衡感覚を養う。</p> <p>(3) レスキュー隊←スクーターボードの上に仰向けで乗り、首を持ち上げ、ロープを伝って後方へ進むことで、体幹を働かせ、協調運動と目と手の協応動作のトレーニングをする。</p> <p>2 平均台</p> <p>(1) ゆっくり歩く←バランスをとりながらゆっくりと歩くことで、平衡感覚を働かせる。</p> <p>(2) パーツの色を言って進む←色を言ってから進むことで、考えてから動くことを体験する。</p> <p>(3) マーカーコーンをよける、ボールを拾う←不安定になるので平衡感覚をより刺激する。</p> <p>3 トランポリン</p> <p>(1) 頭でタッチ←真上に跳ぶことで体の軸を感じ、平衡感覚を刺激する。</p> <p>(2) 矢印の方向を腕で示す←跳びながら一点を見続けることで眼球運動のトレーニングになる。</p> <p>※それぞれの活動の後に、初めに自分で設定した目標が達成できたかどうかを自己評価させるとともに、教師も評価し称賛することで、達成感を味わわせ次回の活動への意欲化を図る。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことが大好きな児童であるので、楽しみながら意欲的に活動に取り組むことができている。少しずつではあるが、行動する前に考えることができるようになってきている。</li> <li>・自分で決めた目標に挑戦して自己評価するという活動を繰り返すことで、うまくできている自分を実感して自信がもてるようになり、学習にも前向きに取り組むようになってきた。</li> <li>・SST と組み合わせて指導することで、自己の言動を振り返ったり他者との考えの違いを認識したりして、場面に合わせた言動を考えることができるようになっていきたい。</li> </ul>	


小学校	考えた合い言葉を状況に応じて般化できるように学級担任等と連携した指導
<p>★対象児童 低学年 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>危険な場面に遭遇したとき、よく考えず衝動的に行動してしまう。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>危険な場面が描かれている場面カードを見ながら、予想されるこの後のいろいろな行動について考えることができる。</li> <li>自分をコントロールするための合い言葉を考え、それを使いながらどのように行動するのかをロールプレイで表現することができる。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①場面カードを見ながら、予想される続きの場面について考える。</p> <p>○自分で予想した危険な場面をできるだけたくさん考えることができるよう、受容的な態度で本児の考えを聞く。</p> <p>②合い言葉を考える。</p> <p>○自分で行動をコントロールするきっかけとなるよう、合い言葉を作る活動を設定する。</p> <p>○体を動かすことが好きな本児の強みを生かし合い言葉にはジェスチャーを付けようと提案する。</p> <p>③合い言葉を使いながら、立ち止まって考えるロールプレイを行う。</p> <p>○実際に掃除道具を使い、教師がたたかいごっこに誘うような場面を設定し、合い言葉を使いたくなるような状況を作る。</p> <p>○合い言葉を使い自分で行動をストップする場面が見られれば即座に称賛し、合い言葉を使おうという意欲を高める。</p> <p>○合い言葉を覚えていつでも使えるようになると、自分一人だけの場面でも危ない場面を避けられると伝え、日常生活への意欲化を図る。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★合い言葉を作る活動では、どんな言葉にすれば自分を止められるかなと問いかけ自分の言葉で作ったことにより、合い言葉が自分にとって一番使い易いものであると感じることができた。</p> <p>★合い言葉とロールプレイで学んだことを担任に伝えた。本児が危険な場面に出会いそうになった時には「合い言葉は何だったっけ」と声を掛けてもらうことで、クラスでも少しずつ立ち止まって考えることができるようになってきた。</p>	



あいことば  
「ちょっとストップキュー」

これからは「たたかいごっこをしないように『ちょっとストップキュー』のあいことばをまもります。」

小学校	視覚と運動が協応する力を高め、指先の巧緻性を養う指導
<p>★対象児童 低学年 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴 入学時に「WISC-IV」と「フロスティック視知覚発達検査」の結果を保護者から提供された。入学後は手先の動きが不十分なことや集中力の持続時間が短いために、書字に時間がかかること、ゆっくり行動するため準備や片付けに手間取ることなどが在籍学級での困難さとしてみられた。他者とのコミュニケーションでは、話題がずれていくことはあるが、おっとりして人に嫌なことを言わないので穏やかに生活できている。</p> <p>★目標 ○ 視覚と運動が協応する力を身に付ける ○ 指先の巧緻性を養う ○ 集中力を高める</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>○ 視覚と運動が協応する力を養う指導 指先に適度な力を入れて、どこに向けて線を書くかを考えることによって、点の上をきちんと通ったり、周りの線に当たったりしない適切な線を書く。書字の基本となる技能の習得に役立つ。 ・「迷路」「点つなぎ」 少し先の箇所を見ながらどこに向けて書くのか考える力を養う。「迷路」は周りの線に触れないこと、「点つなぎ」は点の上を通ることをめあてにする。どちらも鉛筆の先を紙から離さず書くよう意識づける。 ・「WAVES『見る力』を育てるビジョン・アセスメント(学研)」 集中してしっかり見る力を養うために、年間を通してドリルに継続的に取り組む。</p> <p>○ 指先の巧緻性を養う指導 ・「色紙ちぎり」「わっかつなぎ」 (「1日5分!教室で使えるコグトレ困っている子供を支援する認知トレーニング122」東洋館出版 宮口幸治) 指先を使うゲーム要素のある活動に楽しみながら取り組む。 ・「鉛筆や消しゴムの使い方」 (「気になる子どものできた!が増える書字指導ワークシリーズ」中央法規 笹田哲) (「勉強も運動も得意になる子どものビジョントレーニング」PHP 北出勝也) 指先でつまむ力や回転させる力など、書字に必要な技能を「鉛筆体操」として継続的に行う。消しゴムの使い方もこつがつかめるよう1年生の中期まで集中して行う。学級での活動に生かせるように取り組む。 ・「こままわし」 お楽しみタイムとして取り入れ、指先の巧緻性を高める。逆さゴマ、相撲ゴマなどいろいろ楽しめる。</p> <p>○ 集中力を養う指導 ・「消えたのなあと」(「1分間フラッシュカード視知覚トレーニング編シリーズ」教育技術研究所) ・「どこどこカード」(「ワーキングメモリーをきたえるアタマげんきどこどこシリーズ」驛人社) 落ち着いてよく見て覚えたり、考えたりする教材で、ワーキングメモリーも鍛えることができる。「どこどこカード」は通級指導を受けている児童みんなが利用できるように、ラミネートをかけ、そのカードに取り組んだ後、裏に名前を書くようにした。次回カードを選ぶとき、自分が前にしたかどうか見分けがつく。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の特性・困難さに応じて、計画し実施することができた。</li> <li>・児童が落ち着いて活動できる言葉遣いや態度、環境づくりを心がけることによって、児童がスムーズに通級教室に来ることができた。</li> <li>・通級での学びを在籍学級などでの実際の生活の場で生かせるような方策を考えていきたい。</li> <li>・児童の変容を見てそれに応じて柔軟に指導計画や課題を修正していきたい。</li> </ul>	

小学校	感情をコントロールできる自分なりの方法を見つけ、家庭での実践につなげる指導	
<p>★対象児童 低学年（発達性読み書き障害）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちを言葉で表現することが苦手である。</li> <li>学習したときは覚えていても、時間の経過とともに忘れがちである。</li> <li>学校では落ち着いて過ごすが、家庭ではイライラを周りにぶつけてしまいがちである。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イライラを鎮めるいろいろな方法を試すことを通して、自分にできそうな方法に気づき、実生活に生かすことができる。</li> </ul>		
学習内容や指導方法、児童の様子等		
[学習内容や指導方法]		
<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>★ イライラした時に いて考える。</p> <p>(1)イライラを爆発させた 時、させなかった時の 自分の気持ちや家族の 気持ちを考える。</p> <p>(2)ワークシートに考えを 書く。</p> <p>(3)いろいろな方法を試し てみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸法・イメージ法</li> <li>魔法の呪文・数字法</li> <li>スクイーズ 等</li> </ul> <p>(4)自分がやってみたい方 法を決める。</p> <p>★ 本時の活動を振り返 る。</p>	<p style="text-align: center;">児童の意識の流れ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">イライラを爆発させると、自分や家 族はどうなるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">イライラを爆発させると、家族もイ ライラするな。自分もつらいな。</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">いろいろやってみてイライラを鎮め る方法を試してみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">たくさん方法があるな。どれが自分 に合っているかなあ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">〇〇と△△の方法をやってみよう。 うまくいくといいな。</div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;">うまくいったら続けてみよう。うま くいかなかったら、違う方法でやっ てみよう。お母さんと一緒にやっ てみようかな。</div>	<p style="text-align: center;">支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちや家族の気持ちを言葉や表情 でワークシートにまとめることで視覚化する。 （個）考えのヒントとなるように、本児や家 族の表情シールを用意しておき、ワークシ ートに貼るようになる。</li> <li>気持ちを言葉で 表す手助けとなる よう、今までに使っ た気持ちを表す言葉 をカードにしておく。</li> <li>絵カードを提示して、仲良しになるため には、お互いの気持ちが接近することが必要 であることを分かりやすくする。 （評）自分がやってみたい方法を決めるこ とができる。（発言・ワークシート）</li> <li>意欲を高めるために、シールを用意してお き、うまくできた時には「イライラ退治日記」 にうまくいった方法を書くとともに、ノート にシールを貼ることを伝える。</li> </ul> <div data-bbox="1193 943 1437 1115" style="text-align: right;">  </div> <div data-bbox="1193 1133 1430 1182" style="text-align: right;"> <p>表情と気持ちシール</p> </div>
[児童の様子、成果]		
<p>★ 表情シールや気持ちを表す言葉を選択肢の中から選ぶ活動が続けることで、少しずつではあるが、自分の気持ちを言葉で表現することができるようになってきている。</p> <p>★ 学習したことを「ハッピーノート」に残していき、怒りをすぐ爆発させてしまいがちだが、怒りを鎮める努力をしている母親にもノートを見て頂いたり、本児と一緒に取り組んで頂いたりすることを続けていきたい。</p>		



小学校	目と手の協応運動をスムーズにすることで、身体のコントロール力を高める指導
-----	--------------------------------------

★対象児童 低学年（ADHD・視覚機能や体幹の弱さ・書字の困難さ）

★対象児の特徴

- ・自分で決めためあてに向かって、最後まで頑張ろうとする。
- ・体幹に弱さが見られ、姿勢の保持ができにくいため、安定した文字が書きにくい。
- ・視覚機能にも弱さが見られ、画数の多い文字を正しく認識できず、文字も枠の中に収めて書けない。

★目標

- ・姿勢や身体部位を意識しながら動かすことで、身体の動きをコントロールする力を高める。
- ・ビジョントレーニングに取り組み、目と手の協応運動がスムーズにできる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

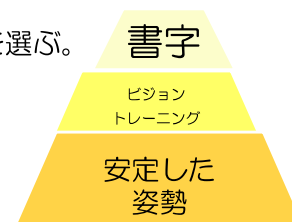
① WAVES(見る力を育てるビジョン・アセスメント) (監修：竹田 契一、著者：奥村 智人、三浦 朋子) で、アセスメントをする。

見えにくい課題を選定し、児童や保護者に説明し目標を決め、整った文字を書くためには、安定した姿勢を基本にビジョントレーニングや手先の動きが大切なことを説明してから進める。

②体幹を鍛え、座った時の姿勢の保持ができるようにする。

◎繰り返し取り組めるよう、簡単なもので楽しみながらできるものを選ぶ。

- ・バランスボールに座り、50回から100回のバウンド体操
- ・30秒の片足立ち（開眼・閉眼）でバランス運動
- ・好きな音楽に合わせて足の開閉運動（カエル足や足パカ運動）

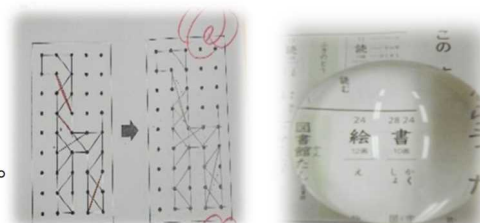


③ビジョントレーニングと目と手の協応運動をする。

- ・点つなぎ ・コマ回し ・ペグアート ・ひも通し

④文字を書くための支援方法

- (1) 画数の多い文字はドーム型ルーペ（拡大）を使う。  
間違いやすい文字は、ラウンドルーペで大きくして見やすいように示して、書こうという意欲につなげる。



<点つなぎ>

<ドーム型ルーペで拡大>

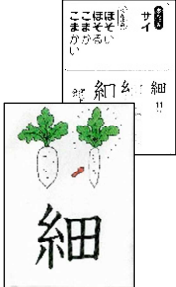
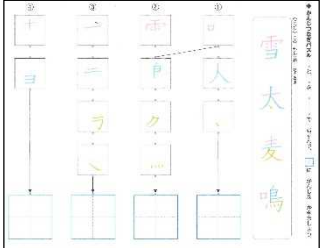
(2) ノートを使う時に気を付けたこと

- ・ノートは児童が書きやすいマスのもので使用して、文字が収まるようにして書く抵抗を減らす。
- ・算数のノートは、「左はしに線を引いて使う」というきまりがあるが、直線を引くことができにくいので時間がかかる。通級の時間にトレーニングとして、5ページほどまとめて長い直線を引く練習をする。

[児童生徒の様子、成果]

★ バランスボールやバランス運動が好きで、楽しんで取り組んでいて、体幹も徐々に鍛えられた。記録が伸びてくると意欲も増し、短時間ではあるが姿勢を保持する時間も伸びてきた。

★ ノートに直線を引くことがなかなかできなかったが、左手でしっかり押さえること、始筆や終筆を目で見ることのポイントが分かると直線を引くことができるようになった。他の図形を描く時にも気を付けるようになった。

小学校	自分に合った学習方法で主体的に取り組むための指導
<p>★対象児童 低学年 (ADHD・LDの疑い)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にでも明るく話しかけることができる。</li> <li>・授業中に集中が途切れやすく、興味のないこと苦手なことはやろうとせず学習意欲が低い。</li> <li>・書くこと全般が苦手だが、特に漢字が苦手。読みにくい文字になり、筆順のまちがいが多い。</li> <li>・九九のきまりに気付き、九九の構成に意欲的に取り組むが、正しく唱えられず覚えられない。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った学習方法を身に付け、集中して取り組むことができる。【自活4(2)・2(1)】</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子	
<p>[学習内容や指導方法]</p> <p>1 漢字の学習</p> <p>・「読み書き達成テスト」等を実施し実態を把握する。</p> <p>漢字の読みは、苦手ではないが覚えられず書くことができない。聴覚的支援よりも視覚支援の方が集中しやすい。反復練習よりもゲーム的な学習の方が集中が続く。</p> <p><b>具体的指導</b></p> <p>① 漢字イラストカード【意味から覚える漢字イラストカード】(かもがわ出版山田充著)を使って</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見て漢字をあてよう。</li> </ul> <p>1年生の漢字をカードを覚えやすいように仲間分け(色・反対語等)してケースに入れる。上半分の絵を見て絵の意味から隠れている漢字を類推する。クイズのように正しく言えるまで繰り返す。答えた後には、文字の部分をきちんと見せて形や覚えるポイントを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見て漢字を書いてみよう</li> </ul> <p>2年生での新出漢字を、①と同じように絵を見ながらカードの枚数を減らして読んだり書いたりした。漢字の筆順はここでは問わないこととした。</p> <p>② 漢字つなぎパズル【すまいる式プレ漢字プリント 書字プリント(3)】</p> <p>目で見て覚える方を得意とするので、部分を組み立てて漢字を構成するワークシートに取り組みさせた。部分ごとに色わけされ、その順に書くと筆順が正しく書けるので楽しんで取り組んでいる。</p>   <p>2 九九の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九九の学習は楽しみにしていたが、聞いて覚える力が弱く、九九を正しく唱えにくいこともあり暗唱できずに意欲をなくす。九九の読み方が通常の数字の読み方と異なっているため音声を数字と対応することができにくく覚えられないようだ。</li> </ul> <p><b>具体的指導</b></p> <p>① 黒板やワークシートに図を使って九九を構成させ、数式の意味理解を図った。頑張った答えを見付けられたことを認める。→好きなキャラクターなどの合格シールなどで賞賛をした。</p> <p>② 一緒に唱える練習をするがどうしてもうまく唱えられない数(4よん→し 7なな→しち等)を今までの数の唱え方でも認め、楽しく身体を動かさせながら唱えさせた。→少しずつ覚えられるようになりやる気につながった。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★漢字の学習にゲームの要素を加えたり、習得のために反復練習から部品を組み立てて漢字を構成をするという練習方法に変えたことでやる気ができ、できた実感することが増えてきている。</p> <p>★九九も通常の数の読み方でもよいとして覚えることで苦手意識が少しずつなくなっている。通常学級の担任とも連携をとり同じ指導を続けている。</p>	

小学校	操作活動を伴う自作教材を活用し、自分でできる体験を多くするための指導
-----	------------------------------------

★対象児童 低学年 (自閉症)

★対象児の特徴

- 人懐こく、大人や仲の良い友達と体を動かして遊ぶことが好きである。集団での初めてのことに不安が大きく、体育や行事への参加を拒むことがある。
- 平仮名や数の習得が緩やかで、一人で課題に取り組むことは難しい。内容や量を調節して、そばで教師が声をかけると、少しずつ前向きに取り組もうと頑張れる。

★目標

- 安心できる環境で教師と一緒に取り組むことで、達成感やチャレンジする喜びを味わうことができる。
- 分からないことを教師に聞きながら、45分間の活動に慣れていくことができる。

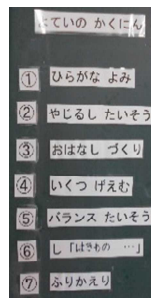
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①学習の見通しがもてる予定表と板書構成

○座って行う活動と動きながら行う活動を小刻みに組み合わせ、学習の流れをパターン化する。

- 今することを意識して終点まで進めるよう、本児が1駅ずつ「バス」を動かしていく。
- 努力や伸びをタイムリーに称賛し、短冊カードに掲示する。再度、「⑦ふりかえり」で本児と共有し、できたことを話せるようにする。
- 花丸の中にさらに丸を描き足していき、継続しようとする意欲や自信を高める。



【予定表】



【板書の後半】

②ゲーム感覚で行えるカードのマッチング

○日常会話や授業で、例えば「いくつ」と「5」「やっつ」と「8」が結び付くようにする。

- (1)順序よく「ひとつ」から「とお」まで唱える機会を多く設け、言葉や言葉の並びに慣れる。
- (2)はじめは、暗唱できそうな数の範囲でマッチングを行い、徐々に数や読み方を広げていく。



【数といくつ】【マッチングカード一覧】

(3)今後の予定として、本児の実態に応じて、いろいろなカードの組み合わせで行う。

例「数」と「いくつ」、「数」と「漢字」、「日付けの読み方」、「神経衰弱ゲーム」、「借り物ゲーム(どこで、何を、いくつ、とる。)…聞く→覚える→探す(カードを読む)→マッチングして置く→聞いた文を話す」

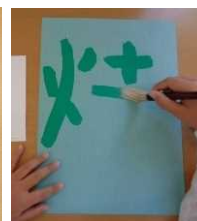
[児童生徒の様子、成果]

- ★課題が一つ終了するごとに、自ら進んで「バス」を動かし、終点まで進めるようになった。
- ★活動全般を通して、分からないことや感想等のつぶやきの言葉が多く出るようになった。
- ★バランス体操での回数やタイムを記録することで、それを超えたいと目あてをもつようになった。

小学校	自己評価を可視化することで意欲化を図り、生活リズムを整える指導
<p>★対象児童 中学年 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動を好む。特に、目新しいことには興味を強くもち、チャレンジしようとする。</li> <li>生活のリズムが整いにくい。メディア機器の使用時間が長く、就寝時刻が遅くなることが多い。そのため、起床時刻が遅くなり、登校が始業時刻ギリギリになることがある。眠気から集中力が続かず学業に支障をきたしたり、感情的になって友だちとトラブルを起こしやすくなったりする。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メディア機器の使用は就寝 30 分前に終わらせて 10 時までには就寝することを心がけ、生活リズムを整えようとする。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①保護者との連絡帳の最終ページに生活チェック表を作り、就寝時刻とメディア使用の終了時刻を記録させる。(登校日の前日になる日曜日～木曜日に記録。金曜日と土曜日は、翌日が休みなので記録しなくてよいことにしている。)</p> <p>②相談して、時刻ごとにシールの色を決め、自己評価ができるようにする。</p> <p>③通級指導の最初に、①に記録した前日の記録をふり返り、卓上カレンダーに②のシールを貼る。</p> <p>④遅くなった時には、眠気を感じることや忘れ物や計算ミスなど、学習中のミスが起りやすくなっていることに気付かせ、早かった時には、調子よく学校生活が進んでいることを実感させる。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>頑張りシールが励みになるタイプなので、現在も喜んで取り組んでいる。連絡帳への記録をし忘れることもあるが、在籍学級の連絡帳や自由帳にメモしたり、覚えたりして、時刻を意識するようになった。学級担任に起床時刻を報告したりもしている。保護者も、自分で就寝時刻を気にかけるようになったと喜んでくれている。</li> <li>卓上カレンダーにシールを貼っていることで、時折、自分で見返してふり返り、意欲を高めていた。遅い日が続くと危機感を覚え、奮起して早寝をしようと頑張る姿が見られるようになり、早寝ができた時には、嬉しそうに報告してくるようになった。</li> <li>登校が始業時刻ギリギリになることは時々あるが、対人関係の大きなトラブルが減り、落ち着いて学校生活を過ごせている。</li> <li>就寝時刻は、まだまだ 10 時半を超えることが多く、遅いときは 11 時を回っていることもある。また、メディア機器は寝る直前まで使用している。今後も生活チェックを継続し、さらに改善を図っていく必要がある。</li> </ul>	



小学校	児童が自分に合う方法を試し実践することで、読み・書きの抵抗感を軽減する指導
<p>★対象児童 中学年 (ADHD、広汎性発達障害)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初見の文章は、一文字ずつ追いながら読むことがある。</li> <li>・助詞を正確に書き表すことができない。</li> <li>・テストのための漢字は覚えて得点できるが、その後、日常的に使うことは難しい。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読むことに対する抵抗感を軽減し、意味をとらえながら読むことができる。</li> <li>・「は」「を」「へ」を正しく選ぶことができる。</li> <li>・自分に合った方法で、漢字を覚えることができる。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①音読</p> <p>○読みやすく、意味をとらえやすくなる方法をいろいろに試してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字や読み方が分からない漢字には、自分でふりがなを書き込む。</li> <li>・読んでいる行を分かりやすくするため、読書補助具を当てながら範読を聞いたり、読んだりする。</li> <li>・言葉のまとまりが分かりにくい場合には、／を入れて、まとまりで読めるようにする。</li> <li>・言葉の意味が分かりにくい場合には、国語辞典やタブレットで意味や画像を調べたり、教師が説明を加えたりする。</li> </ul> <p>②助詞の学習 は を へ</p> <p>○操作活動を取り入れて、クイズ感覚で使い方を学べるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助詞を使う場面を、イラストを見て確かめる。</li> <li>・イラストを見て、単語カードと助詞(ペットボトルのキャップ)を選んで文章を作る。</li> <li>・絵を見て文章を書く。</li> <li>・作文等を書く前に使い方を確認する。</li> </ul> <p>③漢字の学習</p> <p>○漢字の細かい部分や筆順に着目できるよう、書き方を唱えたり、様々な筆記具を用いて書いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字イラストカードで、形や読み方、意味等を確認する。</li> <li>・児童が書けるようになりたい新出漢字を取り上げ、漢字九九を使って読み方や意味、書き方を学習する。筆順動画で、繰り返し確認できるようにする。</li> <li>・砂の上を書く、水書、サンドペーパーを敷いた紙に書くなど、多感覚を活用して書く。</li> </ul> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★本児が読みやすくなる工夫をすることで、読むことに対する抵抗感が軽減し、内容をとらえようとする意識が高まった。</p> <p>★助詞には言葉と言葉をつなぐ役割があることが、体験的、視覚的にとらえることができた。「どっちだったかな」と考えながら、正しい助詞を使って文章を書くことができつつある。</p> <p>★何度も書いて覚えるのではなく、音声から書き方を覚えたり多感覚を使って楽しく書いたりすることが本児には合っていた。記憶に残りやすかった。</p>	



小学校	自分の気持ちを適切に表出し、他者の気持ちに共感するための小集団での指導
-----	-------------------------------------

★対象児童 中学年 (LD・ADHD)

★対象児の特徴

- ・友達と関わることが好きで、休み時間は友達と一緒に過ごしている。
- ・大勢の場では進んで発表する児童は少ないが、小集団では発言することができている。
- ・語彙が少ないため、言葉足らずで自分の思いをうまく伝えられない。
- ・相手の気持ちを考えずに接したり、周りの状況を察することなく行動したりすることが多い。

★目標

- ・気持ちを表す言葉を知り、気持ちを表す言葉を増やすことができる。
- ・自分の気持ちを認知し、言葉で表現し、気持ちの程度を把握することができる。
- ・他者の気持ちを推測し、共感することができる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

① 気持ちを表す言葉

○気持ちを表す言葉がすくないので、表情カードからどんな気持ちか考え、気持ちを表す言葉を知る。

・「どんな気持ち？」・・・気持ちの言葉がたくさん書かれた「気持ちの言葉集」を参考にしながら、いろいろな表情の顔の絵にどんな気持ちなのか考え、ワークシートに書く。

・「気持ちでビンゴ」・・・気持ちの言葉をビンゴシートに書き、言葉と自分の体験したことを結び付けて話す。

② 気持ちの視覚化・数値化

○気持ちは抽象的で、目に見えなく、表現しにくいので、「気持ちの温度計」で気持ちを視覚化・数値化する。

・「気持ちの温度計」・・・うれしい気持ち、不安な気持ち、イライラした気持ちなどを気持ちを表す言葉を仲間分けし、自分の気持ちの強さを言葉とエピソードで表現する。

③ 他者の気持ちに推測・共感

○自分の気持ちを言葉で表現できるようになった児童が、友達の話聞いて友達の気持ちや気持ちの大きさを推測し共感する。

・「気持ちぴったんこクイズ」・・・自分の気持ちを「気持ちの温度計」に表現したものを手がかりにし、気持ちを1つ選び、出題シートにその時のエピソードを書く。正解シートにその時の気持ちと程度を書く。順番に出題する。解答者は解答用紙に出題者の気持ちの種類と程度を予想して書く。

[児童生徒の様子、成果]

★ゲーム性のある活動を取り入れたことで、児童は意欲的に活動し、仲間と楽しい雰囲気の中でお互いの経験を伝えあったり、共感し合ったりすることができた。

★自分のことを知ってもらいたいという気持ちや相手のことを知りたいという気持ちが強まり仲間意識も高まってきた。

気持ちぴったんこクイズ出題シート

6月22日 4年 名前 \_\_\_\_\_

いつ どこで

【前のこと】 【やうえんちで】

だれと 何を

【家族と】 【学校コースター】

どうなった

【家族全員で乗ったおもしろいお祭り】

---

気持ちぴったんこクイズ正解シート

気持ちは? 【不安】

どのくらい? 【4.5】

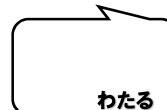
---

気持ちぴったんこクイズ解答用紙

7月6日 4年 名前 \_\_\_\_\_

	名前	気持ち	てい度
1	さん	うれしい	1・2・3・4・5
2	さん	不安	1・2・3・4・5
3	さん	うれしい	1・2・3・4・5
4	さん	楽しい	1・2・3・4・5
5	さん	楽しい	1・2・3・4・5
6	さん	よかった	1・2・3・4・5
7	さん	の気持ち	1・2・3・4・5

小学校	様子を表す言葉を視覚化し、語彙の獲得と活用を促す指導
<p>★対象児童 中学年（軽度知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを忘れやすく定着しない。語彙が少なく、漢字だけでなく、ひらがなやカタカナの形や画数、問題の読み間違いなどをすることがある。</li> <li>話を聞く時に、大事なことを聞きのがしてしまうことがある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主語や述語、5W1Hを確認するとともに、様子を表す言葉を考える。</li> <li>様子を表す言葉を視覚化することで、語彙を増やす。</li> <li>自分だけの本を作る活動を通して、学習や生活の中で使える語彙を増やそうと意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>○集中トレーニングを行い、見たり聞いたりする力を鍛える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よく見るトレーニング 絵の中から、指定された絵を見つけていく。かかった時間を競うのではなく、集中することが大切であることを確認しながら、集中して取り組むことができる。</li> <li>よく聞くトレーニング 問題文を聞き、その内容についての質問に答える。聞き漏らしがあった時には、「もう一度言って下さい。」と問い直しができるようになってきている。</li> </ul> <p>○様子を表す言葉の意味を考えながら、絵に合う言葉を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>様子を表す言葉のカードを見ながら、どんな時に使う言葉かどんな場面なのかを考えながら話をする。</li> <li>いろいろな歩き方の動画をタブレットで撮影し、言葉と動作を結びつける。</li> <li>「いっぽんばしわたる(五味太郎作 絵本館発行)」の絵に、自分で考えた言葉を付け加えて、オリジナルの絵本作りをする。</li> </ol> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 様子を表す言葉のカードを使うことで、その時の行動やどういうときに使う言葉かを自分から進んで考える事ができた。自分の知っている言葉を使って説明し、それを教師が補足することで、少しずつ語彙が増えた。</li> <li>★ 主語と様子を表す言葉を使って、自分だけの本を作るという作業をすることで、喜んで学習に取り組むことができた。できた本をすぐに家に持ち帰り、家族に見せた。</li> <li>★ 今後は、言葉の持っている細かいニュアンスの違いを国語辞典を使って調べるなど、語彙を増やし、それを使うことができるように支援していきたい。</li> </ul>	



小学校	手順表や補助機器を活用しながら自分に合った学び方で数の興味を高める指導
-----	-------------------------------------

★対象児童 中学年 (LD 傾向)

★対象児の特徴

- ・ 読字や書字に困難さがあり、金銭への興味はあるものの、4桁、5桁の数になると読みや数の構成が不確かである。ワーキングメモリーに課題があり、金銭を数えているとき、10円玉の数を数えた後、1円玉の数を数えていると、10円玉の数を忘れてしまうことが多い。「200円」という数字を見て、頭の中では200円とイメージできているが、音声言語に出すときに間違えたり、他者とのやり取りで二重に勘違いをしたりして、数の構成についての理解も混乱することがある。

★目標

- ・ 自分から位の部屋を参照して手掛かりとしたり、貨幣を想起して読み書きを介さずに数を構成したりするなど、自分に合った方策を見つけることができる。

【自立活動 4環境の把握一(2)】

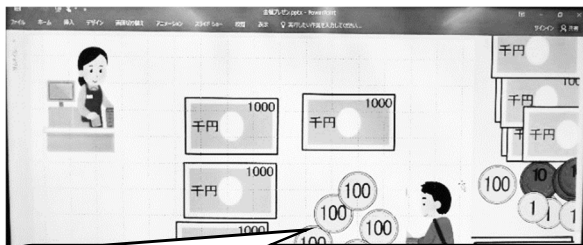
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

【学習内容】

買い物学習で、お客役や店員役になり、代金を支払ったり、お釣りを計算し渡したりする活動を行う。その後、金銭のやり取りについて、児童が板書し、教師や友達に説明する。

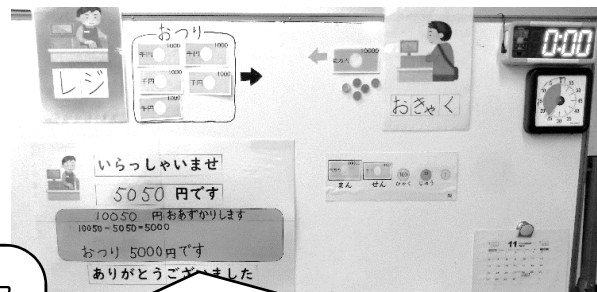
【指導方法の工夫】

ワーキングメモリーに配慮し、書画カメラやレシート付き電卓を用いて、児童が思考に必要な情報を参照できるようにしておく。児童に学習させたい中心課題に集中できるように、バーコードレジスター(玩具)を用いて合計金額を算出するなど、機器を補助的に活用する。



【電子黒板に提示したプレゼンテーションソフトの編集画面】

タッチパネルで、児童が編集画面を使って貨幣を動かして説明する。



【店員役をするときの手順書】

児童が自分がした計算を書き込んだり、貨幣操作の過程を記録したりする。



【計算の過程が残るレシート付き電卓】



【合計金額を提示したり読み上げたりするバーコードレジスター】

【児童生徒の様子、成果】

- ★ 貨幣を使って、4桁、5桁の数を構成できるようになってきた。困ったときには、自分が書いた手順書を見るなど、自分で考えた方法を次の機会に使う様子も見られた。



小学校	ゲーム的要素を取り入れ、スモールステップで書くことへの意欲化を図る指導
<p>★対象児童 中学年 (LD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 書くことを嫌がる。ゆっくりと書いた平仮名にも誤字・脱字が目立つ。</li> <li>• 作文が苦手で、動きが止まりじっとしている。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 平仮名や小3相当の漢字の読み書きがすらすらとできるようになる。</li> <li>• 思ったことを2～3語文で書き表すことができる。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①書字活動</p> <p>○音韻処理が弱く、正確に書くことや思いついたことを文字に置き換えることが苦手である。不器用で面倒がるためスモールステップで進め、達成した喜びが積み上がるようにする。</p> <p>(1) 1カード1音節のカードを読む。誤読カードのみを次回の課題とし、すらすらと読めるまで練習する。その後、五十音表を2分で書けるように練習する。</p> <p>(2) 平仮名で単語の読み書きを練習する。カードを使いクイズ形式でリズムよく進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 丸言葉カード・・・「り〇ご」を「りんご」と読み、言葉をまとまりで意識できるようにする。</li> <li>• 言葉づくりゲーム・・・でん・だい・しゃ・しゅくのカードを組み合わせ「でんしゃ」「しゅくだい」を作る。音読後に書く。苦手とする促音、拗音を含む言葉を出題する。</li> </ul> <p>(3) 2語文で書く。主語・述語にあたる絵を文字に置き換えるワークシートで文を書く。助詞は予め書き込み、無理のない範囲で漢字も使う。書いた文を音読して終える。</p> <p>②思いを文字に表す活動</p> <p>○「作文に書くことが無い。」と話すが、絵が好きでその時の感情をイラストで示すことができる。想起したイメージを文字に置き換えて文を書く練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 連想ゲーム・・・テーマから想起する言葉をたくさん集める。</li> <li>• ころの天気・・・今の気持ちを天気マークから選ぶ。その理由を話して文に書く。(参考文献/2分のできる子どものメンタルヘルスチェックシート 岡田倫代 学事出版)</li> </ul> <div data-bbox="1038 1420 1422 1668" style="text-align: right;"> </div> <p style="text-align: right;">連想ゲーム ワークシート 記入例</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 平仮名表記が中心ではあるが、ノートに聞き書きができるようになった。また、文節や意味の切れ目をとらえて音読し、物語文や問題文の内容を大まかに把握できるようになった。</li> <li>★ 授業終末のふり返り文や絵日記を書く際、自分で内容を決めて文で書くようになった。漢字の練習中に自分なりの用例や熟語をつぶやくなど、前向きに学習に取り組むようになった。</li> </ul>	

小学校	書字に課題のある児童への指導
<p>★対象児童 中学年（読み書き障害）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きに困難さがあり、特に漢字を覚えて書字することが苦手である。近くに手本があれば見ながら正しく書くことができるが、手本なしでは学年相当の漢字をほとんど書くことができない。また、黒板など手元から離れた文字を写すことは難しい。一方で、学習意欲は高く、指示されたことには一生懸命取り組む。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分に合った漢字の練習方法を見付けることで、漢字への苦手意識を軽減し、書くことのできる漢字を増やす。</li> </ul> <p>【自立活動 2心理的な安定-（3）】</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容や指導方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>本時の課題の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>教室前面のホワイトボードに、課題となる漢字とその読み仮名を教師が書く。テストに出題される漢字を優先して練習することで、学習意欲が高まるようにする。</li> </ul> </li> <li>練習方法（1）～（4）を示し、一緒に練習する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードの漢字を手本にして、そのすぐ隣に練習する。</li> <li>ホワイトボードの手本を見ながら、水書版に練習する。</li> <li>特に苦手だと感じる字を選び、砂文字で練習する。</li> <li>ノートに書いて練習する。</li> </ol> </li> <li>本時の成果と次回の課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードの手本を消し、読み仮名のみ残してテスト形式にする。児童が書いた漢字を即時評価し、正解に丸を付けたり、間違いがあれば一緒に訂正したりする。書くことができた漢字を称賛するとともに、間違った漢字については、次回に重点的に取り組むことを確認する。</li> </ul> </li> </ol> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ホワイトボードや水書、砂文字を用いた経験がほとんどなかったため、高い興味関心を示していた。「おもしろい」と何度も発言しながら書く様子が見られ、精神的な負担が軽減したと考えられる。</li> <li>★特にホワイトボードが気に入ったようで、手本がすぐ近くにあること、間違えても手軽に消せること、ノートよりも大きく書くことができるので細部まで見やすいことなどを、好きな理由として挙げていた。</li> <li>★上記の方法で学習した漢字がテストに出題されると、ほとんどの漢字を正しく書くことができ、自信につながったようである。</li> </ul> 